聞き手　仕事中に歌を歌われていたとか‥。

奥野　職人はよく歌っていましたね。その土地の地の歌を歌っていましたから、何を歌っていたかは知りませんが（※1）。

聞き手　染物に関しまして、古文書とか絵写真とかそういうものはございませんか。

奥野　特に心当たりはありませんが、ちゃんと探せばあるかもしれません。

聞き手　用具は奈良県立民俗博物館がかなり集めて行ったのですね。

奥野　そうです。まあ、今はほとんど使わないものばかりでしたから。

聞き手　作業場についておたずねしたいのですが、かつてはここのように入り口の横や裏庭（図80）の方で作業をやられていたわけですね。

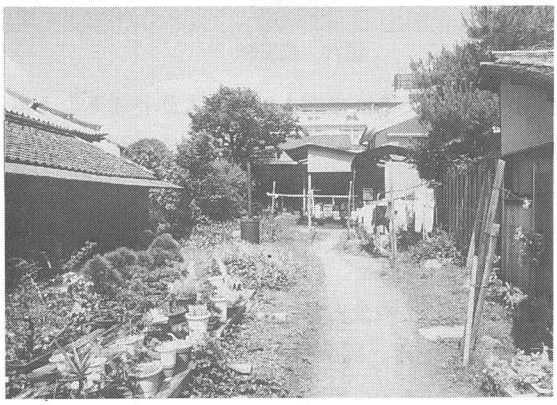

図80　裏庭

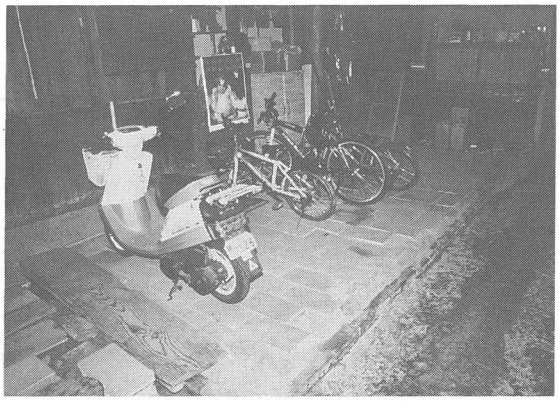

図81　藍甕埋置場所

奥野　ここは主に染めた糸を引っ張る場所です。昔はこの辺りは全部藍の甕でしたから（インタビュー当時はすでにブロックで蓋をされていた。図81）。一段高い部分に、30ほど。それから向こうに大きなおくどさん（定置式竈）がありました。そこには炊事用の釜が据えられていたわけです。

聞き手　そちらの入り口の窓の方の作業台（図82）では主にどのような作業をされていたのですか。

奥野　ここにずっとキレを並べて、その上に型を置いていくわけです。その上からモチを置くと、型の下に糊バリといって濡らした糊が出てきます。ここはそのキレを敷く場所です。

聞き手　モチを置いたものは乾かすのですか。

奥野　裏庭で乾かします。それを藍甕の中に放り込むわけです。

聞き手　それで染めるんですね。藍甕もたくさん置いていますが、染める際も1回で染まるわけでははないんですね。

奥野　色によりますけどね。藍というのは御存知の通り始めは薄いものですけど、何回も染めることによって色が出て来ますからね。

聞き手　それは材料も違うのですか。

奥野　いえ、同じです。同じものに何回もつけるわけです。新しいものから使い古しまで、段階があるんです。

聞き手　藍はどれくらいもつものですか。

奥野　日にちはまちまちですが、とにかく発酵が薄くなってしまうとだめですね。染める

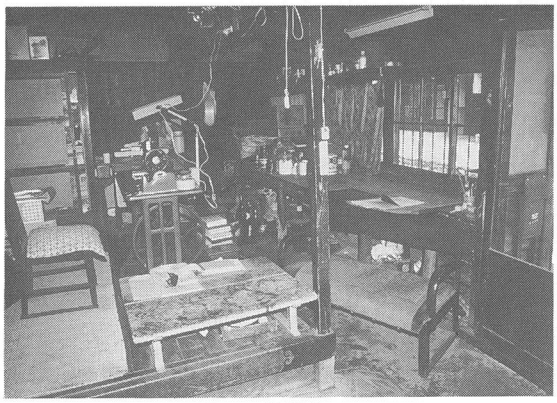

図82　作業台

時は古いものから染めていくんです。つまり一番薄いものから染めていくわけです。それから徐々に新しい濃いものへと移します。

聞き手　裏を見せていただけますか。

奥野　藍甕のことはご存じですか。

聞き手　はい。でもまだ実物を見たことはありません。

（今回発掘され、本書で報告している藍甕の所にて。図83）

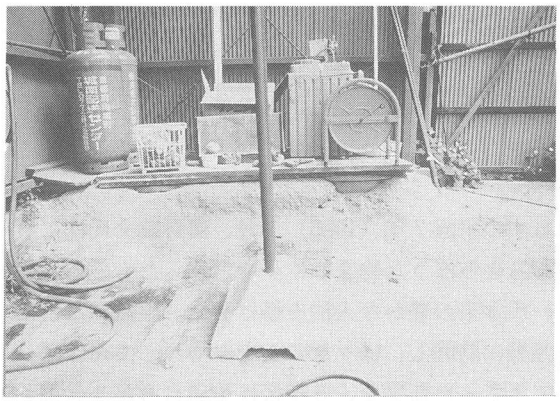

図83　藍甕

図84　刷毛

奥野　これが藍の甕で、今はこの２つだけ残しています。

聞き手　信楽焼ですね。幕末頃のもののようです。

奥野　藍甕は何度も入れ替えてますからね。

聞き手　現在は化学染料を使われているのですか（※２）。

奥野　そうです。

（店の内部に戻る）

聞き手　裏に刷毛を干しておられた所に、棒がありましたが、あれは藍染めを絞る棒ですか。

奥野　いや、藍を絞る棒はもっとごついもんです。麺棒みたいな樫のね（図85）。

聞き手　あそこの竹ヒゴのようなものは、染物を干すときに使うのですか（図86）。

奥野　そうです。伸子（しんし）といいます。これは大きさによって使い分けて、布を引っ張るのに使います。

聞き手　お忙しいところ長時間にわたっていろいろ教えていただき、たいへん勉強になりました。ど

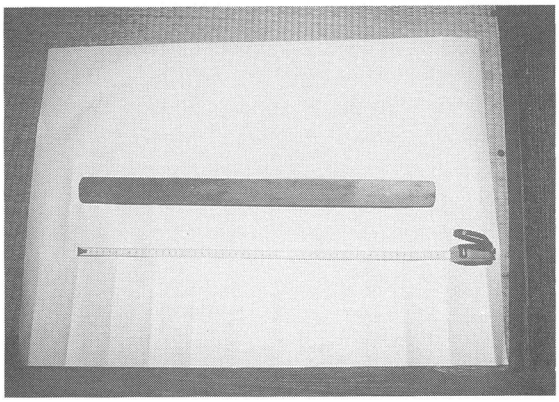

図85　絞り棒

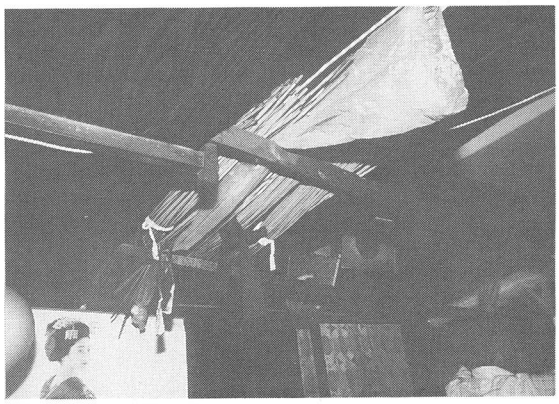

図86　伸子

うもありがとうございました。
奥野　いえ、要領を得ないお答えですみませんでした。

※1つまり、紺屋「柳宗」、もしくはこの地域の紺屋に特有の作業歌は伝えられていない。
※2かつては阿波産の藍を、大阪道修町の取次店を介して仕入れていたが、インタビュー当時は化学染料を主に使われているとのことであった。なおこの他の原料としては、いわゆる河内木綿があった。こちらの方は八尾や東大阪の生産者から直に仕入れていたという。

なお、ここで使用した写真はインタビュー当時（1993年5月）に撮影したものである。

3　まとめ

筆者らがこのインタビューを行ってわずか2年足らずの平成7年（1995）1月、奥野義夫氏はご逝去された。インタビュー当初、職人さん特有のややぶっきらぼうな物言いに少々戸惑ったものの、お話しを進める内にしだいに口調も優しいものとなり、氏本来の豊かな人柄を偲ばせた。詮無いことだが、あの頃にお邪魔を承知で奥野氏のお宅をもっと頻繁に訪問し、様々なことをお尋ねしておけば‥と思う。また、インタビューの際に氏自らが案内して下さった藍甕を、5年後に筆者自身が「発掘」することになろうとは、無論夢にも思っていなかった。あの時、もしも奥野氏が藍甕の存在を我々に教えていなければ、筆者はその存在すら気づかなかった可能性もある。もし氏がご存命であれば、今回の出土品を見てどのようなご感想を持たれたことだろう。

ここに深く追悼の意を表し、氏のご冥福を心より祈念いたします。

No.	器種名	計測値(cm)	成形・調整上の特徴	胎土	備考
			ＳＸ－０１		
1	肥前磁器染付碗	口(10.2)高台(4.2) 高(7.1)			火を受けた痕跡有
2	肥前磁器染付碗	復口(10.6)高台(5.0) 高(6.7)			
3	肥前磁器染付碗	復口(11.4)高台(4.1) 高(6.5)			
4	肥前磁器染付碗	復口(9.6)高台(4.2) 高(6.4)			
5	肥前磁器染付碗	口(10.2)			
6	肥前磁器染付碗	復口(9.4)			
7	肥前磁器染付碗	高台(4.0)			
8	肥前磁器染付碗	高台(4.4)			
9	肥前磁器染付碗	高台(4.8)			
10	肥前磁器碗	高台(4.6)	高台外側面及同内部露胎		
11	肥前磁器碗	高台(4.2)	高台外側面及同内部露胎		
12	肥前磁器染付碗	復口(6.2)			弱く火を受けた痕跡有
13	肥前磁器染付碗	高台(4.2)	畳付に離れ砂付着		
14	肥前陶器碗	高台(5.4)			火を受けた痕跡有
15	肥前青磁碗	高台(4.0)	高台外側面及同内部露胎		
16	肥前青磁碗	高台(3.4)	畳付に離れ砂付着		
17	肥前青磁染付碗	高台(4.4)	高台外側面及同内部露胎		天目形
18	肥前青磁染付碗	高台(4.0)	高台外側面及同内部露胎		天目形
19	肥前白磁碗	復口(11.2)			型作り
20	肥前磁器染付小坏	口(5.8)高台(2.4) 高(3.8)	高台外側面及同内部露胎		
21	肥前陶器碗	高台(4.4)			兜巾底
22	肥前陶器碗	復底(4.4)			
23	肥前陶器碗	高台(4.2)			火を受けた痕跡有
24	肥前陶器碗	高台(4.2)			磁胎
25	肥前陶器碗	高台(4.2)	見込みに目跡痕有		
26	肥前陶器碗	復口(10.4)			
27	肥前陶器皿	復口(11.6)復底(4.4) 高(3.3)			胎土目唐津
28	肥前陶器皿	高台(4.2)			砂目唐津
29	瀬戸・美濃陶器碗	高台(3.9)	見込みに胎土目痕有		天目形
30	肥前青磁仏飯器	高台(4.4)	高台外側面及同内部露胎		
31	肥前磁器染付瓶	復底(4.8)	内面無釉 高台内に離れ砂付着		
32	肥前磁器染付皿	復口(13.2)高台(5.2) 高(3.5)	高台内に離れ砂付着		
33	肥前磁器染付皿	復口(13.2)高台(5.2) 高(3.4)	畳付に離れ砂付着		
34	肥前磁器染付皿	高台(11.2)			
35	肥前青磁皿	高台(5.8)	内面ヘラ彫り		
36	備前焼摺鉢	復底(16.4)	摺目(8本/単位)		
37	備前焼摺鉢	復底(9.8)		クサリ礫含む	使用による摩滅著しい
38	備前焼摺鉢				内外面に泥漿塗布
39	丹波焼摺鉢		摺目(7本/単位)		
40	丹波焼摺鉢		摺目(6本/単位)	長石粗粒多い	
41	丹波焼摺鉢	復底(15.0)	摺目(9本/単位)		
42	丹波焼摺鉢	口(37.0) 底(15.0) 高(12.0)	摺目(7本/単位)	長石多い	口縁～体部上半に自然釉
43	丹波焼摺鉢	復底(14.6)	摺目(6本/単位)	長石・石英含む	
44	丹波焼摺鉢		摺目(6本/単位)		底部内面に自然釉
45	信楽焼摺鉢	復底(15.0)	摺目(6本/単位)	長石粗粒多い	
46	信楽焼摺鉢	復底(14.6)	摺目(9本/単位)	長石多い	
47	信楽焼摺鉢	復底(14.0)	摺目(6本/単位)		
48	信楽焼摺鉢	復底(13.8)	摺目(7本/単位)	長石多い	外面泥漿塗布
49	信楽焼摺鉢		摺目(5本/単位)	長石粗粒多い	口縁端部に自然釉
50	信楽焼摺鉢				

表２　遺物観察表１

No.	器種名	計測値(cm)	成形・調整上の特徴	胎土	備考
51	信楽焼摺鉢			長石粗粒多い	底部内面に重ね焼き痕跡(融着痕)有
52	信楽焼摺鉢		摺目(10本/単位)	長石粗粒多い	
53	信楽焼摺鉢				内外面に泥漿塗布
54	土師皿	口(11.0) 高(2.0)			灯明皿に使用
55	土師皿	口(11.6) 高(2.1)			灯明皿に使用
56	土師皿	口(10.4) 高(2.2)			灯明皿に使用
57	土師皿	復口(11.2)			灯明皿に使用
58	土師皿	復口(9.6)			火を受けた痕跡有
59	土師皿	復口(11.2)			灯明皿に使用
60	土師皿	復口(13.0)			灯明皿に使用
61	土師皿	復口(13.0)			灯明皿に使用
62	土師皿	復口(11.8)			灯明皿に使用
63	土師皿	口(12.2) 高(2.4)			
64	土師皿	復口(11.6)			
65	土師皿	口(11.6) 高(2.05)			
66	土師皿	口(11.8) 高(1.9)			外面重ね焼きの痕跡有
67	土師皿	復口(11.2)			
68	土師皿	復口(11.6)			
69	土師皿	復口(12.8)			
70	土師皿	復口(11.0)			染料付着
71	土師皿	口(11.8) 高(1.8)			外面重ね焼きの痕跡有
72	土師皿	口(7.0) 高(1.6)			
73	土師皿	口(7.0) 高(1.6)			灯明皿に使用 染料付着
74	土師皿	復口(13.2)			内外面に墨書
75	土師器土釜	最大(25.9) 高(13.8)			大和Ⅰ$_2$型Ⅲ－3型
76	土師器土釜	最大(24.2) 高(13.5)			大和Ⅰ$_2$型Ⅲ－3型
77	土師器土釜	復大(26.2)			大和Ⅰ$_2$型Ⅲ－3型
78	土師器土釜	復大(22.0)			大和Ⅰ$_2$型Ⅲ－3型
79	土師器土釜	復大(23.9)			大和Ⅰ$_2$型Ⅲ－3型
80	土師器土釜	復口(20.2)			大和Ⅰ$_2$型Ⅲ－3型
81	土師器土釜	復口(20.2)			大和Ⅰ$_2$型Ⅲ－3型
82	瓦質甕	復大(30.8)			外面にヘラ描き波状文
83	瓦質甕	復口(27.9)			外面にクシ描き波状文(5本/単位)
84	瓦質甕	復大(27.6)			外面にクシ描き波状文(5本/単位)
85	瓦質甕	復底(22.4)	底部外面未調整		底部外面離れ砂付着
86	瓦質甕	復底(23.8)	底部外面未調整		
87	瓦質甕	復底(14.8)	底部外面未調整		
88	瓦質甕		内外面ナデ		
89	瓦質甕		内外面ナデ		
90	瓦質甕		内外面ナデ		
91	瓦質壺	口(9.6)最大(12.0)	外面縦ハケ 内面ナデ		外面に煤付着
92	瓦質香炉	復口(15.8)	外面ナデ		内面に付着物あり
93	土製円盤	最長(3.4) 厚(1.4)		雲母多い	土師器
94	土製円盤	最長(4.9) 厚(1.7)			瓦質
95	土製円盤	最長(4.2) 厚(0.9)			瓦質
96	土製円盤	最長(3.7) 厚(1.2)			瓦質
97	土製円盤	最長(3.7) 厚(1.1)			瓦質
98	土製円盤	最長(5.0) 厚(1.0)			瓦質
99	土製円盤	最長(5.0) 厚(0.9)			瓦質
100	土製円盤	最長(5.2) 厚(0.8)			瓦質

表3 遺物観察表2

No.	器　種　名	計　測　値（cm）	成形・調整上の特徴	胎　　土	備　　考
101	土製円盤	最長（ 3.8）厚（ 1.2）			瓦質摺鉢
102	土製円盤	最長（ 5.1）厚（ 1.1）			瓦質摺鉢
103	土製円盤	最長（ 4.5）厚（ 1.0）		長石多い	信楽焼摺鉢
104	土製円盤	最長（ 4.6）厚（ 0.9）		長石多い	信楽焼摺鉢
105	土製円盤	最長（ 5.3）厚（ 1.3）		長石多い	丹波焼摺鉢
			ＳＸ－０４		
106	肥前磁器染付碗	復口(10.0)高台（ 6.2）高（ 5.2）			
107	肥前磁器染付碗	復口(10.2)			
108	肥前磁器染付碗	高台（ 4.2）			
109	肥前磁器染付碗	高台（ 4.4）			
110	肥前磁器染付碗	復台（ 4.8）			
111	肥前白磁皿	復口(14.2)高台（ 5.4）高（ 3.7）			
112	瀬戸・美濃陶器碗	復台（ 4.6）			天目碗
113	瀬戸・美濃陶器茶入(?)	復底（ 4.4）			
114	信楽焼摺鉢		摺目(5本/単位)		
115	丹波焼摺鉢		摺目(5本/単位)		
116	土師器土釜	復口(22.2)復大(24.0）高（13.7）			大和Ｉ$_2$型Ⅲ－２型
117	土師器土釜	復口(22.6)復大(25.0)			大和Ｉ$_2$型Ⅲ－３型
118	土師器土釜	復口(22.2)復大(25.4)			大和Ｉ$_2$型Ⅲ－３型
119	土師皿	口（ 6.8）高（ 1.5）			
120	土師皿	復口(12.0）高（ 2.2）			灯明皿
121	土師皿	復口(10.6）高（ 2.4）			灯明皿
122	土師皿	復口(11.8）高（ 2.1）			
123	瓦質摺鉢		摺目(8本/単位)		
124	瓦質摺鉢				
125	瓦質摺鉢	復口(29.4)復底（ 9.4）高（14.4）	摺目(9本/単位)		内面赤色顔料付着
126	瓦質火鉢	復口(24.4)復底(16.2）高（16.0）			外面ヘラ描き波状文
127	瓦質火鉢	復口(25.2)復大(11.0)			外面にクシ描き波状文(5本/単位)
128	瓦質火鉢				外面にクシ描き波状文(5本/単位)
129	瓦質小型土釜	復大(11.0)復底（ 5.0）			
130	瓦質摺鉢	復口(40.4)復底(33.2）高（ 5.5）	摺目(12本/単位)		
131	土製円板	最長（ 3.3）厚（ 1.2）			瓦質
			ＳＸ－０３		
132	土師皿	口（11.0）高（ 2.2）			
133	土師皿	口（11.3）高（ 2.2）			
134	鉄製刀子	残存幅(1.3)			
135	土師器炮烙	口（28.8）高（10.6）	内面体部に指頭痕	雲母非常に多い	
136	土師皿	口（10.8）高（ 2.3）			内面付着物有
137	土師皿	口（12.0）高（ 2.5）			
138	陶器壺	底（12.4）		磁器質	丹波焼
139	土師器炮烙	口（24.6）高（ 9.7）		雲母非常に多い	
			ＳＫ－０２		
140	肥前磁器染付蓋	復口(10.2)高台（ 4.2）高（ 2.5）			
141	肥前磁器染付蓋	復口（ 9.6)高台（ 4.0）高（ 3.0）			
142	瀬戸・美濃磁器染付蓋	復口（ 8.8）			
143	肥前磁器染付蓋	復口(10.0)高台（ 4.4）高（ 2.7）			
144	肥前磁器染付蓋	高台（ 4.4）			
145	肥前磁器染付碗	復口(11.2)高台（ 4.6）高（ 6.1）			
146	肥前磁器染付碗	復台（ 4.4）			
147	肥前磁器染付碗	復口（ 8.0)高台（ 3.0）高（ 5.6）			
148	肥前磁器染付碗	復口(10.2)高台（ 4.4）高（ 5.8）			
149	肥前磁器染付碗	復口(11.4)高台（ 4.2）高（ 6.3）			
150	肥前磁器染付碗	復口(11.0)高台（ 4.4）高（ 6.0）			

表４　遺物観察表３

No.	器種名	計測値(cm)	成形・調整上の特徴	胎土	備考
151	肥前磁器染付碗	復口(11.8)高台(4.8) 高 (5.8)			
152	肥前磁器染付碗	高台(4.8)			
153	肥前磁器染付碗	復口(9.6)高台(4.2) 高 (5.4)			
154	肥前磁器染付碗	復口(9.0)			
155	肥前磁器染付碗	高台(3.4)			受熱
156	肥前磁器染付碗	高台(4.6)			
157	萩焼陶器碗	復口(9.2)高台(3.4) 高 (5.2)	高台削り出し		
158	肥前磁器染付仏飯器	復口(7.8)高台(4.4) 高 (5.4)			
159	肥前磁器仏飯器	高台(4.4)			外面青磁釉、内面透明釉
160	陶器仏飯器	高台(3.8)			
161	肥前青磁染付鉢	復口(21.2)高台(10.4) 高 (7.7)			
162	肥前磁器染付鉢	復台(9.0)			
163	肥前磁器染付皿	復口(14.2)			口錆
164	陶器小皿	復口(6.4) 高 (1.4)			
165	陶器土瓶	口 (9.2)底径(6.4) 高 (11.5)			
166	陶器土瓶	復口(10.4)復底(8.0) 高 (12.7)			
167	陶器土瓶	復底(7.8)			
168	瀬戸・美濃陶器植木鉢	復口(21.4)			
169	陶器皿	復口(27.6)			
170	瀬戸・美濃陶器壺	復底(25.0)			内面離れ砂
171	瀬戸・美濃陶器壺	復底(20.8)			
172	堺焼摺鉢		摺目(8本/単位)		
173	堺焼摺鉢		摺目(8本/単位)		内外面泥漿塗布
174	堺焼摺鉢		摺目(8本/単位)		内外面泥漿塗布
175	堺焼摺鉢		摺目(7本/単位)		内外面泥漿塗布
176	堺焼摺鉢		摺目(8本/単位)		外面泥漿塗布
177	堺焼摺鉢		摺目(8本/単位)		内外面泥漿塗布
178	堺焼摺鉢		摺目(10本/単位)		使用による摩滅著しい 高台風に削り出す
179	堺焼摺鉢		摺目単位不明		使用による摩滅著しい 高台風に削り出す
180	堺焼摺鉢		摺目(10本/単位)		
181	堺焼摺鉢		摺目単位不明		高台風に削り出す
182	信楽焼摺鉢		摺目(7本/単位)		内外面泥漿塗布 使用による摩滅著しい
183	土師皿	復口(12.0)			
184	土師皿	復口(10.2)			
185	土師皿	口 (6.4) 高 (1.3)			
186	土師器炮烙			雲母非常に多い	
			ＳＸ－０２		
187	煉瓦	縦 (24.4) 横 (14.1) 厚 (8.3)			漆喰付着
188	煉瓦	縦 (27.1) 横 (14.8) 厚 (8.0)			漆喰付着
			藍甕－０１・０２		
189	信楽焼甕	口 (75.6) 高 (94.0) 底 (22.0)			内面付着物有
190	信楽焼甕	口 (76.0) 高 (87.5) 底 (24.4)			内面付着物有
			その他の遺構		
191	陶器皿	口 (11.4) 高 (2.3)	内面施釉		第１トレンチ第３層
192	陶器皿	口 (12.0) 高 (2.5)	内面施釉		第１トレンチ第３層
193	骨製品	残存幅(1.1) 厚 (0.3)			第１トレンチ第３層
194	瓦質甕	復口(54.0) 高 (43.2)復底(30.6)	外面底部ケズリ		第２トレンチ第４層

【凡例】口：口径　復口：復元口径　高台：高台径　復台：復元高台径　最大：最大径　復大：復元最　大径　底：底部径
復底：復元底部径　裾：裾径　最長：最大長

表５　遺物観察表４

No.	種　　別	実　測　値（cm）	備　　考
W 1	ハケ	高:15.9　幅:15.8　厚:8.0	図示左面に釘彫「ハケ」　同右面に記号状の釘彫　両面に染料付着
W 2	ハケ	高:14.5　幅:16.8　厚:1.1	図示左面に焼印（字体不明）　両面に染料付着
W 3	ハケ	高:15.7　幅:17.1　厚:0.9	図示左面に記号状の釘彫　両面に染料付着
W 4	ハケ	高:14.8　幅:4.0　厚:0.6	
W 5	ハケ	高:14.6　幅:5.2　厚:0.8	両面に染料付着
W 6	ハケ	高: ―　幅:4.2　厚:0.8	
W 7	ハケ	高:15.0　幅: ―　厚:1.0	
W 8	ハケ	高:15.3　幅: ―　厚:0.7	
W 9	ハケ	高:15.0　幅: ―　厚:0.9	
W10	ハケ	高:15.0　幅: ―　厚:0.6	図示左面に焼印「奥野」　図示右面に染料付着
W11	ハケ	高:14.3　幅: ―　厚: ―	片面剝離
W12	ハケ	高:15.0　幅: ―　厚:0.8	図示左面に染料付着
W13	ハケ	高:13.8　幅: ―　厚:1.1	図示左面に染料付着
W14	用途不明木製品	高: ―　幅:1.4　厚: ―	中心に孔が貫通
W15	木栓	高: 5.8　幅:2.9　厚:2.1	
W16	用途不明木製品	高:10.5　幅:4.6　厚:1.0	上下に切り込みあり
W17	用途不明木製品	高:14.8　幅:4.7　厚:1.0	鉄釘貫通
W18	用途不明木製品	高:12.9　幅:5.0　厚:2.7	図示右面に染料付着
W19	用途不明木製品	高:14.9　幅: ―　厚:1.2	図示左面に染料付着
W20	用途不明木製品	高:12.4　幅:4.4　厚:3.0	図示左面に墨書「九月九日」　右面に墨書「九月？」
W21	漆器箱(部分)	高: ―　幅:2.4　厚:7.0	黒漆塗の漆器箱側板
W22	木製組物(部分)	高:14.6　幅:1.2　厚:0.6	
W23	用途不明木製品	高:10.9　幅:12.1　厚:0.7	図示下部、使用による摩滅で先細りとなる
W24	用途不明木製品	高:12.5　幅: ―　厚:0.7	図示右半、やや薄い
W25	用途不明木製品	高:23.7　幅: ―　厚:1.8	
W26	用途不明木製品	高:6.3　幅: ―　厚:0.5	
W27	用途不明木製品	高:31.5　幅: ―　厚:0.7	
W28	下駄	長:16.0　幅:6.0　高:4.0	指の圧痕、及び鼻緒の痕跡残る
W29	下駄	長:23.1　幅:6.5　高: ―	指の圧痕、及び鼻緒の痕跡残る
W30	下駄	長:22.5　幅:9.0　高: ―	
W31	下駄	長:21.3　幅:9.2　高: ―	図示右面に黒色付着物あり
W32	下駄	長: ―　幅:8.0　高: ―	
W33	下駄	長: ―　幅:7.2　高: ―	側面に塗料（漆？)残る
W34	下駄	長:21.0　幅:8.0　高:4.7	鉄釘により朴歯打ち付け
W35	下駄	長: ―　幅: ―　高:5.1	
W36	曲物	径:21.8　高:9.4	
W37	箸	長:22.7　径:0.9	
W38	箸	長: ―　径:0.6	
W39	箸	長:14.6　径:0.7	
W40	箸	長:12.5　径:0.7	
W41	箸	長:20.0　径:0.9	
W42	箸	長:24.0　径:0.9	
W43	箸	長: ―　径:1.0	
W44	漆器椀	口径: ―　器高: ―	内面赤漆、外面黒漆
W45	漆器椀	口径: ―　器高: ―	内面赤漆、外面黒漆
W46	漆器椀	口径: ―　器高: ―	内面赤漆、外面黒漆　外面に彩漆による文様（菊・草）
W47	漆器椀	口径:10.6　器高: ―	内・外面赤漆　外面に黒漆による文様（草花）

表 6　木製品観察表

No.	種　別	①	②	③	④	⑤	出土部位	備　考
C1	寛永通寶(古)	2.35	2.35	0.53	0.53	0.13	第1トレンチ第2層	1636～1659
C2	寛永通寶(新)	2.31	2.31	0.60	0.60	0.10	第2トレンチ第2層	1697～1747，1767～1781
C3	寛永通寶(新)	2.50	2.50	0.59	0.61	0.12	第2トレンチ第3層	1697～1747，1767～1781
C4	寛永通寶(古)	2.40	2.39	0.51	0.49	0.13	第2トレンチ第3層	1636～1659

①直径（上下）　②直径（左右）　③孔辺長（上下）　④孔辺長（左右）　⑤厚さ　［単位㎜］

表7　銭貨観察表

報告書抄録

ふりがな	こおりやまじょうかまち きゅうおくのけ こんやあと はっくつちょうさ ほうこくしょ
書名	郡山城下町 旧奥野家（紺屋跡）発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	大和郡山市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	6
編著者名	山川均 武田浩子
編集機関	大和郡山市教育委員会
所在地	〒639-1007 奈良県大和郡山市南郡山町５５４－１ TEL 0743-53-1151
発行年月日	１９９９年 ７月３１日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
郡山城下町（郡山城）	奈良県大和郡山市紺屋町	29203	02	34度38分39秒	135度47分17秒	19980520～19980710	49.84	建物整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
郡山城下町（郡山城）	都市	近世	藍甕・建物・溝・土坑ほか	近世土器・陶磁器・木製品	

大和郡山市埋蔵文化財発掘調査報告書第６集

郡山城下町　旧奥野家（紺屋跡）発掘調査報告書

平成 11 年 7 月 31 日

編集・発行　大和郡山市教育委員会
大和郡山市南郡山町５５４－１

印　　刷　共同精版印刷株式会社
奈良市三条大路２丁目２－６